

はじめに 情報処理センター長 長嶋 豊

最近の情報空間を基盤にした目覚ましい技術革新により、かつてないほどの大きな社会的変貌が起こっており、個人の好むと好まざるとにかかわらず、その渦の中に巻きこまれる状況が形成されています。

平成13年1月、政府は「情報通信技術(IT)の活用により世界的規模で生じている急激かつ大幅な社会経済構造の変化に的確に対応することの緊要性にかんがみ、高度情報通信ネットワーク社会の形成に関する施策を迅速かつ重点的に推進するために、内閣に「高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部(IT戦略本部)」を設置した。とりわけ、「e-Japan戦略」の重点政策分野には、超高速ネットワークインフラ整備や人材育成の強化が掲げられています。高等教育機関の一翼を担う本校においても、このような施策に則るならば、(1)情報リテラシーの向上、(2)ITを指導する人材の育成、(3)IT技術者・研究者の育成、(4)コンテンツクリエイターの育成などが教育目標の一つに課せられており、極めて大きな使命を負うこととなります。

このような施策の一環として平成13年度の補正予算により、全国高専のネットワーク環境が一斉に更新されました。本校でも武富前センター長、中村元センター長を中心に、日頃、校内LAN運用管理室として活動しているセンター員により、「ギガビットLAN検討専門部会」を発足し、「高速マルチメディア対応情報ネットワーク」仕様を策定してもらいました。今春、6年ぶりに更新されたシステムの特徴は、

- 校内LAN基幹線路を100メガビット/秒(Mbps)から1(Gbps)化、
- ビデオ・オン・デマンドシステム(VOD)の導入、
- 外部との通信速度を専用線1.5MbpsからVLAN型10Mbpsへ増速、
- 図書館、多目的室、会議室などへの無線LAN設備の新設、
- 校内LAN系統の増設による、不足していたIPアドレスの十分な確保、
- 耐故障性の向上として、サーバ類の2重化、
- 情報処理センターのサーバにウイルスチェック機能を追加、
- 全教室でのネットワーク利用可能

などが挙げられます。強力なネットワーク管理サーバと超高速センタースイッチを構成して、本格的なマルチメディア対応システムが構築できました。

マルチメディアとは、文字・音声・静止画・動画などをデジタル処理し、一体的に扱うことにより、同時性・双方向性・表現の多様性・情報の蓄積検索能力の向上を特徴としています。マルチメディアを活用して、教室での学生への教育内容・方法の高度化や研究開発に活用できる環境が整いました。更に、最近とくに奨励されている、地域産業との連携や社会人のリフレッシュ教育など生涯学習社会への対応などに効果的に利用でき、一層開かれて佐世保高専への準備が整いました。

情報処理センターとしては、今後もシステムの機能強化を図りたいと考えておりますので、「e-ラーニング」、「CALL(コンピュータ支援語学学習)システム」の導入、あるいはネットワークを使用した教室のCRTディスプレイへの電子掲示板システムの実現など、高速ネットワーク利用の取り組みについて真剣に検討され、活用されることを期待いたします。